

北海道情報大学学内報



(体育祭終了後の交流会)

● 目 次 ●

大学院(経営情報学研究科)の現状と将来2
 大学院研究科長 前田 隆
 通信教育の現状と将来に関する私見3
 通信教育部長 石井 詩都夫
 カリフォルニア大学サンタクルーズ校4
 との学術交流協定締結
 第1回「海外事情」(アメリカ編)5

第四回中国語研修を終えて6~7
 体育祭特集8~9
 2002江別“世界市民”の集い10
 就職コーナー11
 主要行事・編集後記12

発行・北海道情報大学
 〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



大学院(経営情報学研究科)の現状と将来

大学院研究科長 前田 隆

本学大学院は、主として経営情報学部に基づき、経営情報学研究科(修士課程)からなっており、平成8(1996)年4月に開設されてから既に7年目を迎えています。この間、5期生まで40名近くの「修士(経営情報学)」の学位をもつ修了生を社会に送り出しており、それぞれの分野において専門職業人として着実に活躍しています。また、これまでに本学修了生の中から、博士号取得者を含む2名が本学の教員として採用されて立派にその任務を果たしており、現時点で3名が他大学大学院の博士課程に進学してさらなる高度な研究活動に挑戦しています。

現在、この経営情報学研究科には経営情報学専攻という一つの専攻しかありませんが、これはさらに4つの広範囲な分野を包含しており、それぞれ6~7科目ほどの専門科目から構成される経営管理学系列・会計情報学系列・情報システム学系列・情報処理学系列からなっています。大学院に進学した各院生は、自分が希望する分野としてこれらの系列のいずれかに所属し、その指導教員のもとで自分が探究したいと考えるテーマや課題に沿って修士論文作成を含む専門的な学習・研究を進めることになります。もちろん、所属系列以外の講義を受講することは自由ですし、むしろ、他分野の科目を積極的に学ぶことで視野を広め、それらの知識や技術を生かす能力を高めることが推奨されています。

大学院は、学部レベルの基本的な教育課程に続いてさらなる高度の専門知識を身につけたい、または大卒後一度社会に出て何らかの職業や仕事の経験を踏まえて、最新の知識や技術に関してさらに磨きをかけたい、という希望や動機をもつ多様な人々が入学してきます。本学大学院は、現在、標準修業年限が2年の修士課程だけであり、時間

は短いのですが、それだけにより集中して学業に励む貴重な機会ともなり、それぞれ自覚を持ってその分野のエキスパートとして社会で活躍できるように勉学に励んでいます。

わが国における21世紀の大学像において、専門性の向上は大学院で行うことを基本として、①学術研究の高度化と優れた研究者の養成機能の強化、②高度の専門職業人の養成機能、社会人の再学習機能の強化、③教育研究を通じた国際貢献の役割、の3点を重視した多様で活力ある学術研究のシステムを目指すことの重要性が指摘されています。本学でもこの方向で努力をしていますが、大学院がこのような役割を充分に果たすためには修士課程のみでは不可能であり、博士課程とこれを指導できる強力な教授陣を含めた強固な体制を確立することが不可欠です。

本学も、いずれはそのような充実した大学院をもつ情報に関する総合大学として発展できることが期待されています。そのためにも、一人でも多くの優秀な学生が大学院に進学し、また外部からも多くの入学者を迎えることができるよう努力しているところです。今後、社会や時代が要請するより充実したカリキュラムや系列・コースを擁する研究科の充実、必要な教授陣の柔軟な拡充、新しい分野に対応できる新研究科の創設等と共に、世界に開いた本学の発展のためにも学術交流協定を締結している南京大学やカリフォルニア大学との院生・学生・教員の相互交換プログラムを実現させることにより、グローバルな視点からの国際貢献に繋がる取り組みを進めることはますます重要となっています。さらに、本学の特徴を十分に発揮できる通信制大学院の設立などの課題には必要な条件を整備しつつ着実に取り組んでいくことが大切です。



通信教育の 現状と将来に関する私見

通信教育部長 石井 詩都夫

本学の通信教育は、平成6年より開始されまだ歴史の浅い課程ですが、IT時代の到来における「情報化教育の推進」を志向した点では、この分野における先駆者であり、これまでに4千2百人もの卒業生が社会で活躍している事実をみても、大変喜ばしいことです。

日本における通信教育の発足は、経済的・家庭的な事情他いろいろな事情で全日制の大学に進学できなかった人への学問の府を設け、仕事を持ちながら学習ができ、かつ、大学から遠く離れていても学ぶチャンスを与えることに主眼があったと思います。そのなかでも通信教育が社会で認知されるようになったのは、教員免許状のない社会人への教員養成機関としての役割でした。本学通信教育の開設時には、生涯学習としての学問の重視、なかでも専門分野としての「情報教育」をいかに広げていくかであった。創設者の意図することを基本に、本課程の開設に関わった多くの先達者の英知により基礎固めを終えた現在、着実な歩みを続けていることは周知のことです。

本学における通信教育部生の卒業率の89.6%は、他大学と比較しても大変高い割合です。これは、ひとえに本学教職員の平素の努力の賜ものと考え、あらためて敬意を表する次第です。そのなかでも、卒業率のアップに多大な貢献をしてくださっているのが、正科生Bの指導に直接関わっておられる各専門学校の教職員の方々です。ですから、通信教育での指導は専門学校の教職員との連携なしにはなり得ませんし、今後はこれまで以上の結びつきを必要としていると思います。

現在、通信教育を推進するにあたり最も重要なことは、「どのようなレベルにまで学生を指導し、社会に送り出すべきか」ということです。これは、目標1、2と決めて提示するものではありませんし、上から示すものでもなく、それぞれの専門分野からの指導の実績により、できれば共通したビジョンをもつことではないでしょうか。また、近年はどこの大学にも共通することですが、入学者の多様性に対応した指導内容・方法の確立があげられます。時代に応じたカリキュラムの改訂は当然ですが、「いかに学習させるか、どうすれば意欲をもち続けてくれるか、どんな援助により精神的に豊かになるか」等というカウンセリング・マインドを生かした教育が重要になってきます。

本学の通信教育が、高等専門教育機関の一つとして生き残るためには、「大学院の早期開設」が挙げられます。グローバルな観点から考え、ものをみる習慣をつけなければならない現代ですから、時代の変化に対応した専門的な知識を身に付けなければなりません。昨今、一部の大学院においては、「働く気のない学生の逃げ場」になったり、「適切な就職先がないための待避所」としての隠れみよ的な存在になっている傾向がみられますが、設置目的を明確にしながら、相互に切磋琢磨し合う学問の場を確立し、積極的に社会人を受け入れ、情報化社会が望ましい発展を遂げていくための源流の一つになっていかなければならないと思います。

通信教育課程が、教職員の相互理解により、ますます発展することを願ってやみません。

カリフォルニア大学サンタクルーズ校との 学術交流協定締結に関する報告

1. 日時

2002年7月29日(月)午前11時30分

2. 場所

カリフォルニア大学サンタクルーズ校学長公邸

3. 出席者

北海道情報大学

久野 光朗学長

中居 聡士事務局長

浪田克之介教授

デビット・向井 SCC 参事

UCSC

M. R. C. Greenwood学長

Lynda J. Goff副学長

George Brown副学長

Margo Hendricks国際交流部長

Steve Kang工学部長

S. M. Hedgpeth工学部長補佐

Charles E. McDowell工学部教授

Dan Merson工学部教務職員

Susan Miller公開教育部英語教育部長

昨年来、本学国際交流委員会が中心となり、法人本部のご支援も得て準備が進められてきた本学とカリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)との学術交流協定が本年7月29日に以下の通り締結された。

調印式はUCSC内の学長公邸においてKang工学部長の司会で進められた。最初に工学部長の経過説明があった後、両学長による協定書への調印がなされた。引き続き両学長からそれぞれ挨拶と記念品の交換、また記念写真の撮影があって式は和やかなうちに終了した。その後UCSC主催の午餐会が催された。

午後は工学部長が自ら学内の主要施設を案内され、夕刻6時からは本学主催の晚餐会が開かれた。

なお、翌7月30日(火)午前には、学長と事務局長は折よく始まった本学学生への「海外事情」の授業を参観し、その後Hedgpeth工学部長補佐と両大学間における学術交流の具体的な計画について再度協議がなされた。協議ではUCSC側から学生の交換、教員の交流などの早期実現が強く要請された。



(調印式にて)



(サンタクルーズ校正面)

第1回「海外事情」(アメリカ編)を終えて

「海外事情」のアメリカ編がこの夏初めて実施された。通学生および通信教育部学生が受講できることは中国編と同じである。本年の受講者は通学生6名と通信教育部学生10名の合計16名で、7月28日夕刻に全員がはじめて成田空港で顔を合わせた。これから18日間の研修の始まりである。海外経験は初めての参加者が多く、バンクーバー経由でサンフランシスコまで16時間の旅はそれなりの負担であった。それでもさっそくエア・カナダの機内で隣り合わせた外国人に積極的に英語で話しかける学生もいた。

研修は5泊の2人1部屋の学寮生活から始まった。カリフォルニア大学サンタクルーズ校の恵まれた環境のキャンパスで、学生は2クラスに別れて、午前中は優秀な教師から講義を受け、午後は3人の現地学生も加わってキャンパス内外での研修や実践訓練があった。皆が広大なキャンパスになれ、参加者同士も互いによく知り合えた頃、今度はまた2人1組でホームステイを体験することになった。滞在先は大学から比較的近いところ、またバスを乗り継いで1時間かかるところ、そして家族構成や年齢なども様々であったが、学生たちには貴重なアメリカ人の家庭生活を経験する機会であった。各家庭での9泊の滞在は英語のみでの意思疎通に

学生たちは苦勞しながらも、日本食の腕前をホストファミリーに披露するケースも何組もあり、みな「いい子たちだ」とホストファミリーからはさいわい評判がよかった。2週間の研修がまたたく間に終わり、ヨセミテ国立公園への旅行に出る朝、学生たちはそれぞれのホストファミリーと別れを惜しんだ。

ヨセミテでは簡素なテント・キャンピングでの宿泊に皆が驚く一方、その雄大なスケールの自然や満天の星空などを満喫することができ、もっと多くの参加者があればよいのにとの声が学生から出ていた。

研修期間中は専任の担当者が、空港への出迎えから最終日のホテルへの送り届けまですべての面倒をみてくれた。交流協定を締結している大学に対してとはいえ、きめ細かな配慮には感謝したい。その一方で、本学との連絡が発発間際までなかったこと、細かなスケジュールなどが事前に十分伝達されなかったことなどは、今回の経験を生かして今後よりよい研修としたいと考えている。

今回の研修が所期の目的を達成し、大きな事故もなく終えることができたことにたいし、本学の関係者の皆様にあらためて御礼を申し上げるものである。(文責 浪田克之介教授)



(寸劇演習に励む受講生)



(受講生が利用した学寮)

第四回中国語研修を終えて — 南京大学と中国旅行での活動報告 —

情報学科・教授 玉置重俊

2002年度本学第四回中国語研修には、経営情報学部から2名、情報メディア学部から3名、通信教育部から8名の応募があり、総勢13名の学生が研修に参加した。私も引率教員として、彼等の研修の指導をし、かつ旅行にも同行したので、今回の研修に伴う活動報告を書いて、多くの人たちに研修の実態をお知らせしたいと思う。8月4日に関西空港から、中国国際航空で、上海に出発した。当日は、南京大学の周大江先生が、虹橋飛行場までマイクロバスで出迎えに来て下さった。早速、各自の重いトランクをバスに積み込んで、上海のホテルへ向かう。ホテルでは、学生たちの部屋割りを行い、夕食の時間と場所を教える。ただ、13名の研修学生は、日本各地から中国に来たばかりなので、この時点では中国の風俗・習慣あるいは現代事情に関しては、何も分からない状況である。したがって、夕食前の午後4時半より、ホテルの私の部屋において、第一回目のミーティングを開き、現地の情報と今後の研修に関する詳細な注意事項を伝達する。5日、上海観光（外灘・豫園・上海博物館など）後、蘇州に到着した。6日、蘇州観光（玄妙観・西園・虎丘など）後、高速道路を通り南京に入り、南京大学の西苑に到着した。西苑留学生楼では、午後6時から、海外教育学院の短期留学責任者である張勤女史が、我々の歓迎会を開いて下さった。また、凌徳祥副主任も中国語で歓迎の挨拶をなされたので、私も本学を代表して、日本語と中国語で、お礼の言葉を簡単に述べておいた。宴会終了後は、またマイクロバスに乗り、我々の宿泊施設である南苑賓館に行き、遂に南京大学における語学研修の貴重な生活が始まった。

8月7日、午前中は、小雨模様ながらマイクロバ

スで南京観光（中山陵・明の孝陵など）をした。南京大学の鄧瑞教授が、ガイド役として付いて下さり、中国語で丁寧な説明をなされた。午後には、海外教育学院が本学の学生のために、南苑賓館の会議室で中国語研修の入学式と茶話会を開き、南京大学の紹介と中国語授業の進め方などを詳しく話して下さった。その折、特別に南京大学開校百年の記念Tシャツも頂戴した。学生も、突然のプレゼントに大喜びであった。また、日本で中国語を少し学んだ本学学部の5名の学生も、中国人の先生方の前で、初めて簡単な中国語で自己紹介を試みた。8日、今日から、いよいよ中国語研修が始まる。中国語未修者が8名いるが、



(西安、空海記念碑にて)

中国語学習歴のある5名の学部学生も加わり、1クラス13名編成で、お二人の中国人先生に授業を進めてもらった。特に南京大学の方華先生には、四年連続で本学学生に中国語を教えて頂いているので、本当に深く感謝しなければならない。授業は、毎日南苑賓館の会議室で、午前中のみ開講される。全員が、毎日懸命に

中国語を勉強すれば、きっと上達すると思う。9日、午後からは、歴史学部の張海林教授が我々をマイクロバスで、南京の市内観光に連れて行って下さる。中華門・瞻園・夫子廟などを見学した。これらの名所旧跡を回るだけでも、南京の歴史と風情の奥深さがひしひしと感じられた。18日、全員がマイクロバスで揚州観光（瘦西湖・大明寺・鑑真紀念堂など）へ行く。21日、今日で、学生の中国語研修はすべて終了する。この日の午前中には、お二人の先生と一緒に、中国語の試験を実施なされた。一人一人の面接試験なので、学生たちの聞く話すの実力は、すぐに判定されてしまうようだ。夕方の修了式及び歓送会には、海外教育学院の幹部と中国語担当の先

生方も出席なされた。学生たちは一人ずつ李開主任から修了証書を頂き、とても嬉しそうであった。中国語修得の厳しさを実際に体験しながら、無我夢中で懸命に勉強した学生たちにとっては、やはり生涯でも忘れがたい宴会になったことであろう。

8月22日、今日から、待望の研修旅行である。我々の旅行団には、周大江先生が同行して下さる。午後3時40分に南苑賓館を出発し、南京駅へ向かう。汽車に大型で重いトランクを積むのが、やはり大変である。二等寝台車の空いている所に、各自のトランクを押し込んで、まずは西安へ向かう。初めての汽車の旅なので、学生たちはとても興奮気味であった。23日、午前7時25分頃、西安に到着した。現地でのガイドさんが、出迎えて下さる。西安駅の駐車場は、相変わらず大変な混雑だが、何とか全員大型バスに乗り込み、ホテルへ向かう。しばらくホテルで休息し、午前10時半より、西安観光に出る。まずは、小雁塔を見学する。午後は、碑林博物館と城壁を見学し、空海にゆかりの地である青龍寺も訪れた。学生たちは、見学の記念に記帳をしていた。夜は、西安市内の劇場のレストランで、色々な餃子料理をたくさん頂いた。その後は、午後8時より、陝西省舞踊団の美しい踊りと音楽を鑑賞した。今年は、座席が舞台の近くだったので、とても満足できた。ただ、西安では、幾つかの問題も起きた。それは、我々の泊まったホテルは、二つ星級なので、ホテル内の設備はかなり落ち、部屋の電灯はつかない、ドアは閉まらない、トイレは詰まる、天井から雨漏りはするなど、学生たちからもかなりの苦情が出てしまった。24日、午前は、マイクロバスで西安の西郊外にある漢の武帝の墓、茂陵へ向かう。茂陵を見てから、匈奴征伐で有名な將軍、霍去病の墓地と茂陵博物館を見学する。午後には、唐の第3皇帝・高宗とその皇后である則天武後の合葬墓、乾陵を見学した。この陵のスケールは、確かに一級品である。ふもとから山頂近くの高宗の墓までの階段は、何百段も続く石段で神の道と言われている。25日、午前中は、世界的にも有名な秦の始皇帝兵馬俑博物館を見学する。午後には、半坡遺跡を見学し、西安のスーパー・マーケットにも立ち寄りしてみた。午後4時頃、西安駅に到着し、北京行き夜行列車に乗り込んだ。

8月26日、午前7時半、北京西駅に到着した。バスで、和平里飯店というホテルに向かう。午後から、

大鐘寺と西太后の別荘である頤和園を見物する。頤和園の昆明湖では、遊覧船にも乗った。夕食は、北京の中心部のレストランで頂き、その後は近くの劇場で雑技見物をしたが、雑技はとても迫力があり、難しい技の連続で、学生たちは大いに感動していた。27日、午前8時半から、マイクロバスで万里の長城へ向かう。高速道路を走ったので、一時間半で八達嶺長城の登り口に到着した。ここでは、2時間の自由活動を設けた。みんな元気に、右と左に分かれ、登れる所まで登り始める。勾配も強く、登るのは決して楽ではない。ここは、学生たちが一番感激する場所であり、そして中国旅行もいよいよ終わりに近づいたという深い感情に襲われる場所でもある。夕食は、北京ダックの料理で有名な全聚徳に行き、本場の美味しい北京ダックを頂いた。28日、この日は、最初に毛沢東記念堂に行き、厳粛な気持ちで、毛主席の本物の遺体を拝謁した。その後は、故宮見物に行く。故宮博物館は極めて広大なので、ここでも、2時間の自由行動を設けた。29日、今日は、短期留学の最終日なので、一日自由活動の時間を設けた。そして、午後9時より、ホテルの私の部屋で、最後のミーティングを開き、みんなに研修の感想を話してもらったが、みんな強烈な異文化体験ができて、極めて充実した中国語研修であったと述べてくれた。8月30日、全員が量り知れない収穫を携えて、無事関西空港に帰国できた。とにかく、全員が計画案通りに素晴らしい研修と旅行を終えられたことに対して、運命の神様と研修にご協力頂いた関係者の方々に、深く感謝申し上げたい。来年以降も、本学の多くの学生が、積極的に海外研修に参加して、実践的な言葉の修得と有意義な異文化体験を是非とも実感して欲しいものです。



(北京、天安門広場にて)

第12回

体 育 祭

DATE
2002. 6.26~27

体育祭実行委員長 3年 佐々木 英彦

今年は去年までの競技種目であるバレーに変え、バドミントン新たに追加した。この競技種目の決定には四苦八苦した。去年、情報メディア学部が新設された。学科新設以前は、すべての学年がA・B・C・Dの4つに分かれていた。それに情報メディア学部のE・F・G・Hクラスが増えたのである。このことは体育祭で組まれるトーナメント数、試合数の増加を意味する。今年の体育祭で行われた種目は6種目、一種目あたり17試合。これを開催2日間で消化しきれなければならなかった。去年と同じく、バレーとバスケットで体育館競技のタイムテーブルを組んでしまうと、うちの体育館のキャパシティでは、今年はトーナメントの消化不良が起きてしまう。よって、今年はバドミントンへの変更に至ったわけだ。体育館はバレーコートに2面しか張ることができない。しかし、バ

ドミントンになるとコートに4面張ることができる。さらにクラス参加から、自由参加の競技に変更することでこの消化不良という問題に対応した。バレーからバドミントンに競技変更した背景には、学生からの強い要望のほかにもこのような理由があったからだ。加えて、秋から春へと体育祭の開催時期を変更したのは、大学祭と準備期間をずらすことで、よりよいものを創りたかったためだ。今年のこれらの変更疑問を持たれていた方がおられたようなので、せっかくなのでこの場を借りて説明させていただいた。

体育祭や大学祭の成功には学生の参加が絶対条件。ぜひ、今年参加された方は来年も、今年は参加できなかった方も来年こそは参加をお願いします。そして、教職員の方々も少しでも関心を持っていただいて参加していただければ幸いです。

◇第12回情報大体育祭結果報告◇



総合優勝 Z1
総合2位 Z2
総合3位 2GH



○女子ドッチボール

優勝 1年
2位 3年
3位 2年

○卓球

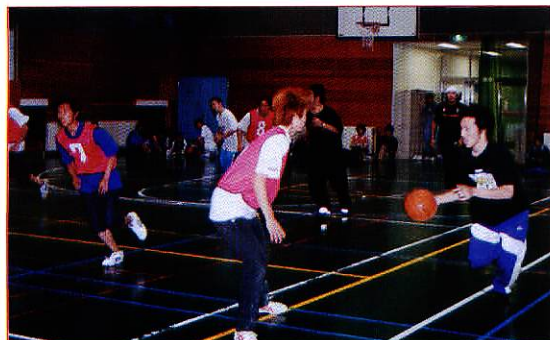
優勝 タイトロープ
2位 ナツパ
3位 Bチーム



○バドミントン

優勝 Bo's ぼうず
2位 2F
3位 水陸両用

MEMORIAL PHOTO by 体育祭



みんなおいでよ！2002江別 “世界市民”の集い

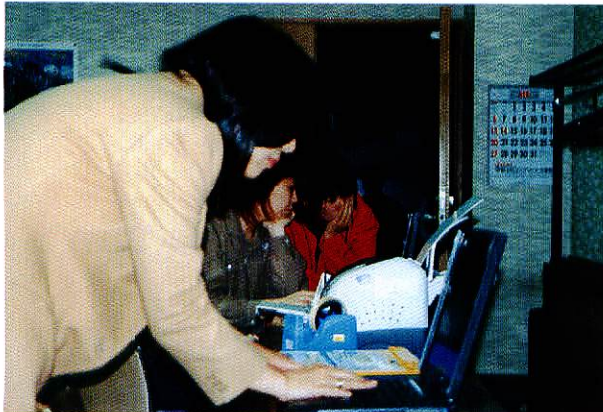
情報メディア学部 助教授 野澤 譲 治

江別市国際交流推進協議会行事

国際交流のイベントである「みんなおいでよ！2002江別“世界市民”の集い」が10月6日に江別コミュニティセンターで開催されました。この国際交流のイベントは本学の国際交流委員会の活動の一環として本学から実行委員（野澤教員）、理事（野澤教員）が選ばれ、企画・実行されています。

開催当日は雨の中、多数の江別市民の方々、外国からのお客様（13ヶ国以上）、小学生から大学生にいたるまで来ていただきました。イベントには本学以外にも野幌高校はハロウィーン、浅井学園大学はジャズの演奏、とわの森三愛高校はお琴の演奏、江別高校はエスニック・レストランの手伝い、札幌学院大学はカメラによる記録、酪農学園大学は抹茶コーナー、その他ボランティア団体ではヒッポファミリークラブは「多言語で遊ぼう」などを企画・参加しました。北海道情報大学からは、教員として斉藤一先生、高井那美先生、加納先生、新保先生、玉置先生が参加され、高野先生にはコンピュータなどの運搬、棚橋先生にはOSのインストール、コンピュータの選定、操作手続きの指導について手伝っていただきました。情報大の学生サークルからはSPC（Student Project Circle）7名イベントサークル8名

が参加しました。IT体験の部屋では棚橋先生の協力によってOSのインストール、借り出しが可能となったコンピュータ5台、プリンター1台、広報課の大橋さんに貸していただいたカレンダー作成のためのソフト、北電系の無線プロバイダーのホットネットという会社から貸していただいたインターネットのためのアンテナとデータカードをそれぞれ3台、デジカメを1台持参し、斉藤一先生がインターネット体験の催し物、高井那美先生がコンピュータ・グラフィックスを使った誕生月のカレンダー作成の催し物を展開されました。さらに「国際井戸端会議」という講演の催し物では加納先生、新保先生と玉置先生が出席され、ユーモア溢れる国際的なお話しを1時間30分にわたって披露され、受講者との楽しい質疑応答もたれました。IT体験の部屋には約60名の方々がお寄りになり、特にコンピュータ・グラフィックスに人気が集まりました。「国際井戸端会議」では延べ30名の出席者を数え、かなりの大盛況となりました。また、集い全体の参加者数は400名となりました。来年度は本年度の集いの反省点を活かしてさらに良いイベントを企画・実行し、江別市民と情報大学とのつながりをさらに強いものにしていきたいと思えます。



(CGでカレンダー作成中)



(インターネット体験)

就 職 コ ー ナ ー

まだ内定を得ていない4年生へ

まだ内定を得ていない4年生は、是非就職課に相談に来て下さい。内定獲得まで、最後まで諦めずに活動を続けていきましょう。

就職指導スケジュール 【学部3年生・大学院1年生対象】

11月1日(金) 5講目 202教室 第2回履歴書作成指導

履歴書作成指導の2回目です。前回の履歴書指導で提出されたものを添削して返却します。

11月8日(金) 5講目 202教室 第2回模擬適性検査

7月5日に続いて2回目の実施です。実際の就職試験を念頭においた模擬試験です。

11月9日(土) 終日 201教室 SPI解き方講座

10月25日に行われたSPI試験の結果を返却し、その解き方のコツを1日かけて講義します。

11月15日(金) 5講目 202教室 第2回一般常識テスト

6月28日に引き続き2回目の一般常識テストを実施します。一般常識はやればやるほど力がつきます。

11月22日(金) 5講目 202教室 第5回就職説明会

フリーターについて就職委員の先生が講義します。今や社会問題にもなっているフリーターについて自分自身の認識を深めて下さい。

11月29日(金) 5講目 202教室 エントリーシート試験

実際にエントリーシートを記入する試験を実施します。設題は就職課前の掲示板にすでに掲示してありますので、記入する内容をあらかじめ考えてきて下さい。

12月6日(金) 5講目 202教室 論作文試験

論作文を苦手とする学生が多いことと思います。ここでは最初に論作文の書き方のコツについて外部講師が講義した後、実際に論作文試験を実施します。

12月13日(金) 5講目 202教室 ビデオ説明会

就職活動のマナーについてビデオを上映します。

12月19日(金) 1講目 203教室 女子学生対象就職説明会

外部講師による女子学生のみを対象とした就職説明会です。女子学生の就職状況は男子学生に比べて大変厳しいのが現状です。講義では女子学生の就職環境から、身だしなみやマナー等についての具体的なアドバイスまで聞くことができます。

12月20日(金) 5講目 202教室 面接レッスン講座

面接のアドバイスと指導、注意点について、就職委員の先生が講義します。

平成15年1月24日(金) 5講目 202教室 特別ガイダンス説明会

平成15年2月13日に実施される私大協主催の特別ガイダンスの説明会を実施します。この特別ガイダンスは北海道地区の会社説明会のスタートと位置づけられている大変重要なものです。そのため説明会ですので、必ず参加して下さい。

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 大 学 ☆

◇教員人事◇

採 用 (9月1日付)

経営情報学部 情報学科 助教授 齋藤 康彦

◆◆ 7月～10月主要行事 ◆◆

☆ 法 人 本 部 ☆

9月14日(土) eDCグループ文体ソフトボール大会

☆ 大 学 ☆

- 7月12日(金) 経営情報学部教授会
- 19日(金) 情報メディア学部教授会
- 21日(日) AO入学試験(A日程)第1次面談
- 26日(金) 全学教授会
- 28日(日) 『海外事情』研修旅行:
(アメリカ・カリフォルニア大学サンタクルーズ校(8月14日迄))
- 8月4日(日) 『海外事情』研修旅行:
(中国・南京大学 8月30日迄)
- 23日(金) 教職員健康診断
- 9月6日(金) 経営情報学部教授会
- 〃 臨時全学教授会
- 13日(金) 情報メディア学部教授会
- 21日(土) 大学院1次募集選抜試験
- 22日(日) AO入学試験(B日程)第1次面談
- 10月5日(土) 情報メディア学部3年次編入学試験
- 7日(月) 臨時全学教授会
- 8日(火) 日本私立大学協会北海道支部40周年記念式典
- 11日(金) 経営情報学部教授会
- 12日(土) ふるさと江別塾
- 12日(土) 道民カレッジ大学放送講座放映
- 12日(土) 大学祭(蒼天祭)
- 13日(日) 〃
- 18日(金) 情報メディア学部教授会
- 20日(日) AO入学試験第2次面談
- 24日(木) 衛星通信教育セミナー2002
(一般公開サテライト会場)
- 25日(金) 同上
- 25日(金) 全学教授会
- 30日(水) AO入学試験結果通知
- 30日(水) メディア教育開発センター国際シンポジウム2002
(一般公開サテライト会場)
- 31日(木) 同上

☆ 通信教育部 ☆

<入学選考>

10月18日(金) 第1回入学者選考

<前期地方スクーリングⅢ>

7月5日(金)～7日(日) 全国3カ所
7月12日(金)～14日(日) 全国15カ所

<夏期スクーリング>

8月5日(月)～28日(水) 本学、東京

<後期地方スクーリングⅠ>

10月25日(金)～27日(日) 全国17カ所

<前期授業科目試験>

8月31日(土)～9月1日(日)、6日(金)～8日(日)、14日(土)

◆◆ 広報活動 ◆◆

- 7月5日(金) 石狩翔陽高校出張講義(2年生)
- 11日(木) 高校教員対象入試説明会(本学会場)
- 12日(金) 同上(函館会場)
- 15日(月) 同上(帯広会場)
- 16日(火) 同上(釧路会場)
- 17日(水) 同上(北見会場)
- 18日(木) 同上(旭川会場)
- 24日(水) 進学わくわくライブ(於:つどーむ)
- 24日(水)～26日(金) e-Learningフェア(於:東京ビッグサイト)
- 8月5日(月)～7日(水) 教育ソリューションフェア2002
(於:パシフィコ横浜)
- 30日(金) 石狩翔陽高校出張講義(1年生)
- 9月21日(土) えべつものつくりフェスタ2002
(於:北海道電力総合研究所)
- 24日(火) 北海道情報専門学校との合同説明会(盛岡会場)
- 25日(水) 同上(八戸会場)
- 26日(木) 同上(青森会場)
- 27日(金) 同上(弘前会場)
- 10月12日(土)～14日(月) MIX2002(於:札幌パークホテル)

<オープンキャンパス>

8月3日(土)、8月31日(土)、9月28日(土)、10月26日(土)

<進学相談会>

8月 道内6会場
9月 東北6会場、道内9会場、東京会場

<校内ガイダンス>

7月～5校、8月～2校、9月～2校

<通信教育秋期合同入学説明会>

8月31日(土) 札幌、東京 9月1日(日) 名古屋、福岡
9月7日(土) 大阪

<通信教育部説明会>

10月5日(土) 大阪 10月6日(日) 名古屋
10月19日(土) 東京 11月2日(土) 札幌、福岡

<高校訪問>

7月～8月 道内近地・遠地 8月 青森県、岩手県
9月～10月 道内近地・遠地 計622校

<TVCM>

7月 UHB HTB TVH 8月 UHB HBC
9月 UHB 10月 UHB HTB TVH STV

◆◆ 主な来校者 ◆◆

- 7月9日(火) 秋田県大館工業高校教員 1名
- 10日(水) 青森県松風塾高校教員 2名
- 17日(水) 野幌中学校生徒 4名
- 8月1日(木) 日本開発構想研究所 8名
- 9月11日(水) 野幌高校1年生 64名、教員 4名
- 10月2日(水) 白樺学園高校教員 2名
- 3日(木) 稚内大谷高校野球部員 18名、教員 2名
- 30日(水) 札幌丘珠高校 1年生 28名、教員 2名

編 集 後 記

先日、雪虫を見た。興味があったので百科事典で調べてみたところ、晩秋から早春にかけて現れる昆虫の俗称だそうである。

東北地方と北海道を中心に現れるのが半翅(はんし)類でアブラムシ科の一群(リンゴワタムシ、ナシワタムシ、トドノネオオワタムシなど)がそれである。白い綿状の分泌物をつけて

飛ぶ。

ふわふわと、ゆったり落ちてくるように見えるのは、実は飛んでいるのかと思うと、何とも不思議ではある。しかも手のひらに乗せようとするとう消えてしまう。雪虫の登場は、冬の到来を告げる。冬支度といえば昔は大根の漬物や、冬囲いが定番であった。今は様替わりして、冬靴、防寒着(コート)、スタッドレスタイヤである。時代は変わっても、空飛ぶ冬の風物詩-雪虫-、一句ひねりたいところですが、そのオがないところがいいところです。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第24号

発行日 平成14年11月1日
発行 北海道情報大学
編集 学内報編集委員会